

事務事業名		越喜来簡易水道施設整備事業				☒ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間		予算科目				
	施策名	良好な生活空間の創造						会計	款	項	目	事業
	基本事業名	上水道・簡易水道の整備				☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～) ☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 25 年度～ 27 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		16	01	01	02	01
	根拠法令	水道法										
所属	部課名	都市整備部簡易水道事業所				↓		全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
	課長名	中井 吉隆										
	係 名	簡易水道係	電話	0192-27-3111								
	担当者	館下 睦章	内線	202								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												
越喜来簡易水道は、昭和45年度に創設され、計画1日最大給水量730㎥/日の能力に施設整備されているが、生活形態の変化により生活用水量の増加が見られ、近年、計画給水量を大きく上回る状況になっており、施設能力の限界近くで運転していたため維持管理に苦慮していた。また、水源は山間を流れる河川(浦浜川)から取水していて、上流部が野生鹿の生息地となっており、感染症腸炎の病原体であるクリプトスポリジウム等による汚染が心配された。 これらの問題を解消するため、平成19年度に計画1日最大給水量1,200㎥/日の変更認可を受け、平成23年度から工事を着手する予定であったが、震災のため中断していた。平成25年度より事業に着手し、施設の抜本改良することにより、良質な水道水の安定供給を図る。なお、集落環境整備事業の導入により、平成25年度は、修正設計業務と、機械設備・電気設備・土木工事を債務負担行為により実施。平成26年度は債務負担行為による機械設備・電気設備・土木工事と、建築工事、ポンプ室更新実施設計業務を実施し完了予定であったが、機械設備・電気設備・土木工事の一部と、建築工事の一部を平成27年度へ繰越した。平成27年度は平成26年度からの繰越分の機械設備・電気設備・土木工事の一部と、建築工事の一部及びポンプ室更新工事と浄水場土木工事を実施した。												
総投入量(千円)												
事業費												
財源内訳												
国庫支出金												
都道府県支出金 503,385												
地方債 390,800												
その他 112,741												
一般財源												
事業費計(A) 1,006,926												
人件費												
正規職員従事人数 2												
延べ業務時間 4,800												
人件費計(B) 19,200												
トータルコスト(A)+(B) 1,026,126												

1 現状把握の部(DO)

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

浄水場機械設備の一部・浄水場電気設備の一部
浄水場土木工事
浪板・崎浜・崎浜第一ポンプ室機械電気設備更新

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

事業完了のため無し

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

越喜来地区の住民(市嶺を除く)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

増加する水需要に対し安定した供給をする。

④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)

住みやすい生活環境になる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称

単位

ア 浄水場・ポンプ場設備更新

箇所

イ

ウ

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称

単位

カ 給水区域内人口(計画給水区域内人口)

人

キ

ク

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称

単位

サ 給水人口

人

シ 計画1日最大給水量

m3/日

ス

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
		単位							
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円			125,000	144,130	234,255	
		地方債	千 円			12,500	144,100	234,200	
		その他	千 円			112,509	125	107	
		一般財源	千 円						
	人件費	事業費計(A)	千 円	0	0	250,009	288,355	468,562	0
		正規職員従事人数	人			2	2	2	
		延べ業務時間	時 間			1,600	1,600	1,600	
		人件費計(B)	千 円	0	0	6,400	6,400	6,400	0
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	0	0	256,409	294,755	474,962	0
⑤活動指標	ア	箇所			1	1	4		
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	人			1,933	1,943	1,892		
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	人			1,912	1,923	1,875		
	シ	m3/日			730	730	1,146		
	ス								

事務事業ID	0710	事務事業名	越喜来簡易水道施設整備事業
--------	------	-------	---------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
施設の老朽化が進んできたこと及び、水需要が増加し、計画給水量に対して現況の1日最大給水量が大きく上回り、緩速ろ過池の予備池の使用やろ過速度を早くするなど、施設能力の限界近くで運転しており、施設の維持管理に苦慮するようになったため。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
過去10年間の人口を見ると年々減少傾向にあることから、給水人口も減少傾向にあると推定されるが、生活形態の変化により1人当たりの生活用水量は増加している。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
この事業は合併建設計画掲載事業であり、地域住民より早期完成を要望されていた。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 簡易水道施設の整備は、良質な水を安定的に供給することにつながり、その結果、潤いに満ちた快適な都市環境の創造に結びついた。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 上水道の整備は、水道法で定められた地方公共団体の義務であり妥当である。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 整備の対象が現在の給水区域内人口を対象としていることから、適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 現在、給水普及率は現在92.7%であり、住民の水道への依存度は高いが、すべての住民に良質な水を供給するために、さらに普及率を高めていく必要がある。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 事業を廃止・休止していたら、施設の老朽化がさらに進行し、安定的な水道の供給ができなくなり、生活環境が悪化が懸念された。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ ライフラインに関わる極めて公共性の高い事業であるため、他の方法は考えられなかった。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ これまでは全額簡易水道債により事業を行ってきたが、水産課の補助事業である漁業集落環境整備事業を導入したことにより市負担が軽減された。(補助率50%)	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 施設整備に必要な設計業務等及び工事管理・監督業務は専門業者への委託で対応した。それ以外の工事発注業務等は市の必要最小限の担当者で対応したことから削減の余地はなかった。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 簡易水道使用者からは給水負担金及び水道料金を徴収しており、負担は適正であった。	

事務事業ID	0710	事務事業名	越喜来簡易水道施設整備事業
--------	------	-------	---------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成25年度～平成27年度の3年間で浄水場整備及びポンプ室3箇所の更新を実施したが、実施期間中、復興関連工事の増加による人員、資材不足がみられ工事の進捗に多少影響を及ぼしたものの、概ね順調に実施できた。 今後はより多くの住民に良質で安定した水道水を供給するため、普及率向上に努める必要がある。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成27年度で事業完了。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし																							

4 事務事業の2次評価結果	(職 名) ※原則として施策の主管課長	(氏 名)
2次評価者	簡易水道事業所長	中井 吉隆

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている	
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)	

(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 施設整備により、安全で安定した水道水を供給し、さらなる普及率の拡大に努める必要がある。
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり												
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり												

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業完了により、今後は安定した水道水の供給を図るため適切な維持管理に努める。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
